

令和元年度第2回 旭川市総合戦略検討懇談会 議事録

日時 令和元年11月14日(木) 午前10時00分から午後12時00分まで

場所 旭川市民文化会館 第2会議室

出席者

参加者

(50音順)

石井 吉春氏 , 伊藤 義夫氏 , 川村 祐子氏 , 斉藤 素子氏 ,  
坂本 尚志氏 , 嶋崎 東子氏 , 関山 真教氏 , 能登 裕一氏 ,  
三浦 顕治氏 , 松倉 敏郎氏

オブザーバー

国土交通省北海道開発局旭川開発建設部地域振興対策室長 岩渕 仁志氏  
国土交通省北海道運輸局旭川運輸支局首席運輸企画専門官 山角 雄一氏  
農林水産省北海道農政事務所旭川地域拠点 総括農政推進官 渡辺 純一氏  
経済産業省北海道経済産業局地域経済部健康・サービス産業課参事官 直江 健二氏  
経済産業省北海道経済産業局地域経済部健康・サービス産業課参事官 楠本 啓二氏  
北海道上川総合振興局地域創生部長 加茂 秀治氏

事務局

総合政策部長 佐藤 幸輝  
総合政策部次長 坂本 考生  
政策調整課主幹 北嶋 一雅  
政策調整課主査 狩野 大助  
政策調整課 小松 知広  
政策調整課 太田 一弘

会議の公開・非公開

公開

傍聴者の数 1名

## 会議資料

資料1 旭川市人口ビジョン改訂版（案）

資料2 第2期旭川市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）

資料3 第1期 旭川市まち・ひと・しごと創生総合戦略評価検証結果報告書

資料4 第2期 旭川市まち・ひと・しごと創生総合戦略基本方針

※資料3, 4は当日配付資料

## 会議次第

### 1 開 会

### 2 議 題

(1) 旭川市人口ビジョンについて

(2) 第2期旭川市まち・ひと・しごと創生総合戦略について

(3) その他（今後のスケジュールの確認など）

### 3 閉 会

## 1. 開会

## 2. 議題

### (1) 旭川市人口ビジョンについて

(事務局)

資料1に基づいて説明

(進行役)

旭川市人口ビジョンについて、質問・意見等ありましたらよろしくお願ひします。

なければ私からよろしいですか。全体としては、前回の目標値と比較すると目標を下げたということですか。

(事務局)

そうです。

(進行役)

第1期戦略の目標は厳しいと分かっていたので、第2期戦略の目標を一段とリアルにしていますが、何もしなければ達成できない水準なので政策的努力は必要だと思います。

第1期戦略では、現在の状況が人口ビジョンにある最低ラインよりも悪い数字がスタートラインと認識できてよかったと思います。今後、予想よりも人口減少が進む可能性もありますので努力するだけでなく、懇談会のメンバーで現状を共有する必要があると思います。

目標値は低すぎもよくないですが、達成可能性がなければリアリティがなくなりますし、うまく書きにくい部分もあると思いますが認識の共有が重要だと考えます。

また、人口ビジョンはどこまで下がりゆくかという可能性を示すのが大事だと思います。

## (2) 第2期旭川市まち・ひと・しごと創生総合戦略について

(事務局)

資料2に基づいて説明

(進行役)

第2期旭川市まち・ひと・しごと創生総合戦略について、質問・意見等ありましたらよろしくをお願いします。

(A氏)

人口ビジョンの推計と5年前に立てた目標が乖離しているようには見えませんが、第2期戦略では推計を大きく下回っていると書いてあります。グラフ上は同じに見えますがいかがでしょうか。

(事務局)

評価検証報告書の6ページを見ていただくとパターン①よりも数字は下回っています。

(A氏)

年度別で数字を見ると目標を下回っているということですね。わかりました。

前回の懇談会で第1期戦略の反省を活かして同じような結果にならないように第2期戦略に盛り込んだ部分はありますか。KPIを変えるなど検討されているのは分かりますが、同じような結果になってしまうのではないかという考えを払拭できるような内容はありますか。

(事務局)

一番変えさせていただいた場所は基本目標3の部分でございます。基本目標1の合計特殊出生率は微増していることから自然人口増減は効果があったという認識です。人口が減っている理由としては社会人口増減だと考えています。基本目標2が直接的に社会人口増減に効いてくる内容ですが、社会人口減を探っていくと基本目標3において市内に働き口がなければ基本目標1, 2は効果が現れにくいと考えまして、現行戦略をベースにしながら基本目標3に新たな視点を盛り込むなど内容を変更しております。

今後、国の交付金などを活用しながら具体的な事業を追加していきたいと考えています。

(進行役)

総合戦略の目標は変更をしにくいと思っていますので、具体的な事業を重点化して絞り込む必要があると考えています。旭川市は人口流出をさせない、雇用や高等教育機能が弱い印象がありましたが、今回の戦略で内容が進んでいるのでよかったと思います。

人口の定着について、分野を広げて書いていただいています。主には労働力不足への対応が課題だと思います。障害者や外国人労働者について記載をしてもらっていますが、今の段階で検証しては遅いと思います。東川町では外国人労働者に力を入れていますし、人口が減っていく中で必要となる外国人労働者の受入を更に踏み込んで考えることが重要だと思います。移住・定住について、成果が少ししか出ていない理由としては働き口よりも住宅が問題だからです。しかし、第2期戦略には何も書かれていない。本当に人口を増やしていこうと考えれば、空き家を利用するなどやり方はあると思いますし、住宅についての記述を見ると抽象的な部分が多いので具体的に書いて欲しいです。

(事務局)

今、空き家という話が出ていましたが、基本目標2の移住に関する総合的な環境整備という部分で宅建協会と協力をしながら移住者の住宅環境の整備を行っています。

(進行役)

わかっていますが、戦略には具体的に書かなければ意味がありませんので書いてください。

(A氏)

お聞きしたいのですが、市では移住者枠を作って採用試験を実施していると説明ありましたが、市内では移住者枠を設けている企業はありますか。例えば、市役所が移住者枠を作っているとPRしたり、民間の移住者枠採用になった人に住宅補助を行ったり、してもいいのではないのでしょうか。移住だけではなく、雇用創出・雇用促進につながるの

ではないでしょうか。

(事務局)

国，都道府県，市町村が連携して首都圏から地域の企業に勤めた場合に移住支援金を給付するという施策をやっています。旭川市も市内の中小企業に勤めていただいた場合に支援を行う取組を行っています。

(A氏)

人口ビジョンをいただいた中で高校生が地元に残って働きたいという割合が多いと思いました。一方で，みんなが進学するから市外へ進出する学生も多いと考えます。先ほども申し上げたように U ターン枠を作ったり，旭川には働く場所があると伝えたり，子ども達に旭川市の雇用環境を理解した上で進学してもらうくらいやって欲しいです。7 ページの一番下の KPI に高校生を入れたから終わりという訳ではないです。

また，前に話しましたが高卒・大卒の給与体系は変わらないと伝えて欲しい。中小企業の多くは金額を変えていない企業が多いと聞いております。例えば，市役所でも高卒で入庁した職員が勤続年数4年経過した場合には，試験を受けて大卒と同じ給与体系にするなどの取組を進めていけばお金をかけて市外に進学させなくてもよくなります。高校生のうちから旭川の住環境や労働環境の現状を伝える必要があると思います。

(事務局)

雇用担当では，「はたらくあさひかわ」という旭川の雇用情報提供等をしているサイトで高校生のインターンシップ情報の発信を検討しています。

(A氏)

入試の関係で仕事をしています。今の高校2年生から受験の方式が変わりまして高校時代にどんな経験をしたか，という主体性を評価する方式になります。多くの高校は課外活動で経験を積むためのカリキュラムを検討している。是非，地元の企業と協力して活動するような施策を考えていただければと思います。

(進行役)

私は北海道教育委員会と交流がありますが，地域づくりの観点から施策の検討・実施をする取組もあります。旭川市であれば市教育委員会が市内の高校と課外活動の枠組を作るなど，新たな仕掛けをしていただければと思います。高校生が社会に1歩踏み出すことはとても意味があると思いますし，地域も何か関わらなければいけないと感じます。高校生がこのような経験をすることは将来の U ターンを考える上でも意味があると考えています。

(B氏)

高校生の職業体験を実施していると聞きましたが、上川町は広報誌で体験内容や感想を伝えていると聞いています。そのような体験がUターンに繋がってくると思います。その内容を文章として入れていただければよいと思います。

旭川市では、移住者を積極的に採用していると書いてありますが、採用しているのかを教えていただければと思います。それを積極的に宣伝していけば良いと思います。

ワーク・ライフ・バランスについて、婚活イベントを旭川市が計画していると聞いていますが、公共施設でチラシを見ますが民間の小売店や地区センターでも宣伝をして欲しいです。

また、貧困についての話もありましたが、結婚した後の子育てなどを考えると正社員同士の結婚でなければ経済的にも難しい部分があると聞いています。行政として子どもの貧困を含めてやらなければいけないことがあれば、教えていただきたいと思います。ワーク・ライフ・バランスは企業でも努力をしていますが達成が難しいと考えておりまして、行政として支援できることについても教えていただければと思います。

(進行役)

移住者枠の職員数やワーク・ライフ・バランスの具体的な内容については、整理して後日、伝えていただければと思います。

ワーク・ライフ・バランスについては、行政のアプローチが難しいと思います。お願いがメインの内容になってしまいますので具体的な考えを書いていくことが重要に感じます。

(C氏)

住宅の話が出てきましたが、空き家対策協議会では対策が進んでいないのが現状だと思いますので、進展させていただきたいと思います。

また、東京近郊に住んでいた経験があり、関東に台風が直撃するなど自然災害が多い年だったことから、友人と話している時にどこが安全な都市かという話題になりました。関心を持っている人が多くいる中で、地震や台風が少ないという利点のアピールをしていくとともに、旭川市が住みにくい理由としてあげられる雪の対策をしていくことが必要であると考えます。

安全・安心で言えば、最近、治安に関してあまりよくない話も聞きますので、安全に暮らしていける政策も必要だと思います。

高齢者で言えば、介護士などの人材不足に対する待遇改善や質のよい住居があればいいアピールになると思います。

学習環境に関して、Feeeal 旭川で学習をしている学生を見ますが、学習できる場所に

恵まれていないのかなと思いますので図書館の充実なども必要だと思いました。

(D氏)

道内では新規農業人フェア, I ターン, 札幌や東京, 大阪でイベントを開いていますが, 旭川市のブースが消極的で移住者に PR ができていない。若い夫婦は自己資金が少なくても始められるトマトなどが有名な自治体へ行ってしまふ。異常気象により雪で新規参入者の作物に被害がでていと聞きますので, もっと災害の少ない旭川を東京, 大阪などへアピールできるような文章を書いて欲しいと思います。

(進行役)

空港の関係ですが, 旭川空港に欠けているのは国内 LCC に関する記載だと考えています。ある程度, 具体的に文章を入れて進めなければ他の地方空港に負ける可能性があります。やはり, 航空路線の価格を下げることが北海道の遠隔地には非常に効果があると考えています。結局, 航空路線が増えてもインバウンドが増えただけという結果になってしまうので具体的に明記していただきたいと思います。

JR は残す方向で考えていますが, 国は現段階で地元負担ありきの支援を継続する方針を出していますので, 沿線自治体として負担を認める覚悟を持って書くのであれば止めはしませんが, タイミングが違うと思います。現実的には路線を残すためには, 国の負担で残すという枠組みしかない。それだけで市が路線維持を求めていくのはナンセンスだと思いますし, 負担金を求められると思います。

(A氏)

地域主体のまちづくりの充実で, 公民館や地域包括センターとの連携で高齢者の問題だけではなく, 若い人の問題も考えるという内容を追加して欲しいと思います。以前, 総合計画の話の中で若い人たちがなぜ高齢者のもとへ来ないことから町内会が先細っていると聞きました。若い人が社会を知るといふ効果も含めて, 若い人も含めた地域主体のまちづくりをしてもらおうと良いと思います。参考までに意見させていただきました。

(進行役)

もう意見は無いようですので, 次に進めさせていただきます。

### (3) その他 (今後のスケジュールの確認など)

(事務局)

今後のスケジュールについて説明。

(進行役)

今回の修正を反映した案を私がチェックさせていただいた後で皆さんに修正後の案を見ていただいて過不足をチェックし、修正してもらえればと思います。

いずれにしても2月が実施事業をぶら下げての内容になりますので具体的な話をしていければと思います。

そのような内容で進めていきたいと思っています。何か発言がある人はいますか。

(E氏)

私は、生まれた赤ちゃんに絵本を配る仕事をしていますが、全道・全国規模で見ると旭川市の取組はすごい、そんなことをしているの、と驚かれました。絵本の配布を目的で事業を行っている自治体は何件かありますが、地域にどういってお母さん達がいる、という悩みがあって、とチェックすることが目的の事業は珍しいと思います。そういう事業あるので旭川市へ転勤願を出したという人もいました。そういったことを宣伝できればもっと人口減少にも効果が出ますし、お母さん達も注目してくれるのではないかと思います。暗いニュースばかりでしたので発言させていただきました。

### 3. 閉会